

ぐんま緑の県民基金事業

～ みんなの森をみんなで守ろう ～

平成27年度

実施報告書



平成28年10月
群馬県

も く じ

- はじめに ……1
- 目指すべき目標 ……1
- 平成27年度ぐんま緑の県民基金事業の総括 ……2
- 平成27年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要 ……3
- I 水源地域等の森林整備 ……4
- II 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進 ……9
- III 市町村提案型事業 ……11
- IV 制度運営 ……15
- V ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿 ……18
- VI 資料集(別冊)

○ はじめに

群馬県は、県土の3分の2を森林が占めています。

豊かな水を育み、また災害を防止するなど、私たちの暮らしを支え、多くの恵みをもたらす森林は、県民共有の財産です。

県では、この大切な森林を守り、育て、次世代に引き継いでいくため、県民税均等割の超過課税として「ぐんま緑の県民税」を平成26年4月から導入し、様々な施策に取り組んでいます。

○ 目指すべき目標

木材価格の低迷や山村地域の過疎化・高齢化などにより放置され、荒廃が進む森林の整備を進めるため、また、森林を取り巻く新たな課題に対応するため、次の目標に向けて施策を進めます。

● 豊かな水を育み、災害に強い森林づくり

● 里山・平地林等の森林環境を改善し、安心・安全な生活環境を創造

○ 期間

- 事業期間 5年間(平成26年度から)
- 課税期間 5年間(個人平成26年度課税(平成25年所得分から))
(法人平成26年4月1日以降に終了する事業年度分から)

平成27年度ぐんま緑の県民基金事業 総括

ぐんま緑の県民税評価検証委員会は、税の使途の透明性・公平性を確保し、事業内容の検討、実績評価・効果検証を行うため、平成26年に設置され、平成26年度に3回、平成27年度に3回、計6回の委員会を開催し、ぐんま緑の県民基金事業の執行状況や効果について検証・評価を行ってきました。

□ ぐんま緑の県民税評価検証委員会の総括意見

・1年目は、税の導入決定から実施までの期間が短かったこともあり、市町村・県民への浸透がスムーズではなかったが、積極的な普及啓発活動が功を奏して、2年目は県下31の市町村で本税による事業が展開されるようになった。

引き続き、普及啓発を図り、3年目では全35市町村で展開されるように推進すること。

・水源地域等の森林整備については、依然として整備対象森林の所有者確定と境界確定が困難を極め、事業が計画通りに進展していないが、引き続き、市町村・森林組合等と連携し、森林所有者には誠意を持って本税の趣旨を説明し、少しでも多くの森林の整備が図れるように努めること。

なお、森林整備に際しては、林齢や林相に応じて間伐率を変えるなど、対象地の森林特性に合致した間伐を実施すること。

・森林ボランティア活動・森林環境教育の推進については、森林ボランティアへの参加人数が5千人を超え、県民による活動が活発化している点は評価される。

特に本県の次代を担う子供達への森林環境教育は、本県の今後を考える上で重要であり、教育委員会・小中学校・高等学校などとも連携して、森林ボランティア、緑のインタープリターの育成・派遣をさらに推進すること。

・市町村提案型事業については、2年目に入り、導入市町村数・件数とも増加しており、普及啓発の効果が現れていると認められる。

イノシシ等の被害が全県的に発生している現状をふまえ、鳥獣被害対策事業とも連携し、県民の安全がより守られるような森林整備についても検討すること。

・制度運営については、順調に進んでいると認められる。

水源地域等の森林整備については、諸般の事情から遅れがみられるものの、概ね当初の計画通りに推進されており、基金の使途についても妥当であると認められる。

引き続き、県民の理解を得られるように、普及啓発と事業推進を図ること。

平成28年10月

平成27年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要

財源

【収入】基金(基金残高・税込、寄附金、運用益)

1,249,000千円

(内訳) ・基金残高427,049千円 ・税込819,833千円
 ・寄附金1,844千円 ・運用益274千円

使い道

【支出】ぐんま緑の県民基金事業 714,865千円

※繰越として実施する事業 466,786千円

I 水源地域等の森林整備

460,639千円

【林政課】

(内訳) ・平成26年度繰越事業220,781千円 ・平成27年度事業239,858千円
 ※平成27年度繰越事業404,481千円

II 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進

14,966千円

【緑化推進課】

III 市町村提案型事業

236,761千円

【林政課】

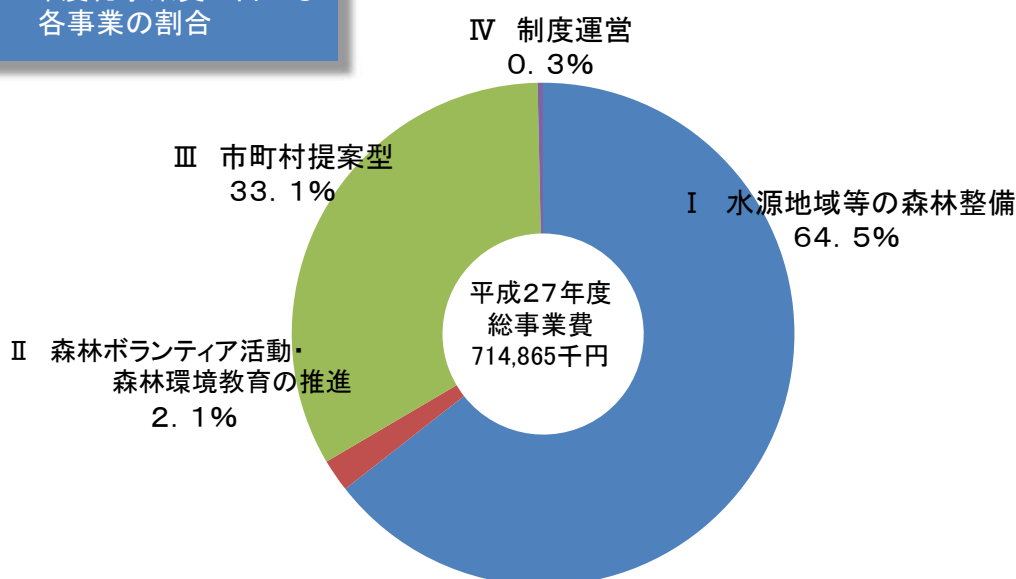
(内訳) ・平成26年度繰越事業71,237千円 ・平成27年度事業165,524千円
 ※平成27年度繰越事業62,305千円

IV 制度運営(普及啓発、評価検証)

2,499千円

【林政課・林業試験場】

平成27年度総事業費に占める各事業の割合



1 概要

● 条件不利地森林整備

地理的、地形的な条件により林業経営が成り立たず放置されている条件不利な森林を対象として、間伐などの森林整備を実施します。

● 水源林機能増進

市町村が管理する簡易水道等の上流部の森林であって、水源涵養機能等の低下が懸念される森林を対象として、間伐などの森林整備を実施し、水源涵養機能の増進を図ります。

● 松くい虫被害地の再生

松くい虫被害木が放置され、笹や竹が繁茂した森林を対象として、コナラやスギなどを植栽し、新たな森林へ再生を図ります。

2 事業の流れ

① 区域調査委託

事業区域の検討や森林所有者の調査を実施し、判明した森林所有者に対して、事業説明や実施に関する承諾を得ます。



② 実施計画調査委託

森林所有者から承諾を得た森林を対象に、事業の実施区域の測量や標準地調査を実施します。



③ 森林整備の実施

調査結果を基に間伐等の森林整備を実施します。



3 整備イメージ

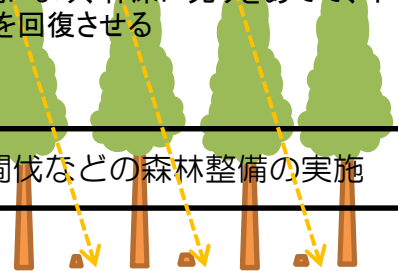
現状

- ・手入れがされず、公益的機能が低下した森林
- ・林内は暗く、下層植生が乏しい



- ・間伐の実施により、林床に光りをあてて、下草などの下層植生を回復させる

間伐などの森林整備の実施



将来

- ・下層植生が回復し、公益的機能の高い森林へ移行



4 実施状況

【平成27年度の実績】

460,639千円

(内訳) 平成26年度繰越事業220,781千円 平成27年度事業239,858千円(事務費309千円含む)

○条件不利地

森林整備

- ・区域調査
 - H26繰越: 226ha
 - H27実績: 944ha
 - (H28へ繰越: 145ha)
- ・実施計画調査
 - H26繰越: 154ha
 - H27実績: 247ha
 - (H28へ繰越: 388ha)
- ・森林整備
 - H26繰越: 276ha
 - H27実績: 128ha
 - (H28へ繰越: 347ha)

○水源林

機能増進

- ・区域調査
 - H26繰越: — ha
 - H27実績: 564ha
 - (H28へ繰越: 325ha)
- ・実施計画調査
 - H26繰越: 42ha
 - H27実績: 184ha
 - (H28へ繰越: 380ha)
- ・森林整備
 - H26繰越: 88ha
 - H27実績: 50ha
 - (H28へ繰越: 199ha)

○松くい虫

被害地の再生

- ・区域調査
 - H26繰越: — ha
 - H27実績: 56ha
 - (H28へ繰越: — ha)
- ・実施計画調査
 - H26繰越: 4ha
 - H27実績: 13ha
 - (H28へ繰越: — ha)
- ・森林整備
 - H26繰越: 12ha
 - H27実績: 9ha
 - (H28へ繰越: 22ha)

- ・平成27年度は、平成26年度の繰越事業と、平成27年度事業を実施しました。



条件不利地等の森林整備（東吾妻町）



条件不利地等の森林整備（桐生市）



水源地林機能増進 (神流町)



松くい虫被害地の再生 (前橋市)

○参考 (作業状況)



5 成果

- ・平成27年度内に562haの森林整備を実施しました。
(内訳:平成26年度繰越予算375ha、平成27年度予算187ha)
- ・計画的な森林整備を推進するため、1,830haの区域調査(平成26年度繰越予算266ha、平成27年度予算1,564ha)を優先して実施した結果、約1,200haの森林について協定が締結され、森林整備の準備が整いました。

6 課題・方向性

- ・本事業の対象となる森林は、手入れ不足による過密林であることから、細く貧弱な木で構成されており、強度間伐後は気象災害を受ける危険性が高くなります。
そのため、選木(伐採する木を選ぶ)の熟練者と監督員が協力し、気象災害を受けにくく、公益的機能が向上する森林となるよう整備を進めていきます。
- ・奥山での作業箇所が多く、作業効率が向上しないため、労働力が不足するという新たな課題が判明しました。
労働力不足解消は時間を要しますので、関係団体等と協力しながら、新規参入者や新規就労者を増やしていきます。
- ・昨年の実績報告時に、評価検証委員会より「山林所有者の確認等に市町村担当部署にも協力を求め、事業の推進を図ることが必要」との意見をいただいたため、各市町村が定める個人情報保護条例等を担当する部署と積極的に協議しながら、事業を推進しています。
- ・長期間放置された森林は、森林境界や所有者の特定が困難な状況にありますが、引き続き市町村と連携しながら、森林境界と所有者を明確にして事業に取り組んでいきます。
- ・区域調査委託による受注者からの事業説明では理解を得られず、協定が締結できなかった森林所有者については、職員が直接連絡を取り、再度事業内容の説明を行うことで、協定締結を目指しています。
- ・事業開始年度である平成26年度は、区域調査の発注準備に時間を要したために、森林整備は全て平成27年度へ繰越となりました。
平成27年度は、平成26年度繰越予算分として375ha、平成27年度予算分として187haの森林整備が完成しましたが、繰越が多い状況となっておりますので、繰越解消に向け、早期の森林整備発注を行います。

7 実施状況の評価(評価者:県)

- ・平成27年度予算での森林整備目標885haに対し、約754ha(年度内完成187ha、繰越567ha(稼働中))の森林整備を行います。
区域調査を先行して実施したために、目標達成には至りませんでした。来年度以降の森林整備に繋がる結果となりました。

8 平成28年度の目標面積等

- 平成28年度 水源地域等の森林整備事業 目標面積等について

単位(ha)

事業名	区分	5カ年計画	平成26年度予算		平成27年度予算				平成28年度予算目標
			計画	実績	計画	実績	繰越	計	
条件不利地 森林整備	区域調査	—	970	1,205	1,874	944	145	1,089	1,300
	実施計画調査	—	970	407	1,039	247	388	635	650
	森林整備	3,500	360	276	700	128	347	475	650
水源林 機能増進	区域調査	—	150	383	397	564	324	888	200
	実施計画調査	—	150	135	300	184	380	564	100
	森林整備	500	50	88	165	50	199	249	100
松くい虫 被害地の再生	区域調査	—	50	213	45	56	—	56	80
	実施計画調査	—	50	36	45	13	—	13	40
	森林整備	200	10	12	20	9	22	31	40
合計	区域調査	—	1,170	1,800	2,316	1,564	469	2,033	1,580
	実施計画調査	—	1,170	578	1,384	444	768	1,212	790
	森林整備	4,200	420	375	885	187	567	754	790

- 平成28年度については、平成27年度繰越事業分の567haの森林整備を早期に完成させるとともに、全体計画である4,200haを見据えた上で、新たに790haの森林整備面積を目標に、水源かん養機能などの公益的機能を高めるための森林づくりに取り組みます。

9 評価検証委員会の意見

- 本事業は、ぐんま緑の県民税の中核となる事業であり、森林の公益的機能を高めるために有益な事業である。
- 森林整備に際し、所有者の確定と境界の確定は依然として時間を要しているが、これは予想されていたことであり、懸命の取り組みは認められるので、今後も森林組合・市町村の協力を得ながら、一層のスピード感を持って事業を遂行すること。
- 森林所有者が、ぐんま緑の県民税の趣旨をよく理解し、事業遂行に協力いただけるよう、関係者が誠意を持って任に当たること。
- 効果検証のための「植被率」は、期間が短いため明確な向上は見られていないが、事業効果が県民にわかるように、数値による「見える化」を行うこと。
- 林齢や林相に応じて間伐率を変えるなど、対象地の森林特性に合致した間伐を進めること。
- 林業労働力の安定確保のための施策についても検討すること。

Ⅱ 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進 《緑化推進課》

1 概要

● 森林ボランティア活動の推進

「森林ボランティア支援センター」を運営し、専用ホームページや情報誌、メールマガジン等による情報の収集・発信や刈払機の取扱いなどの安全指導、森林整備作業器具の貸出し、森林ボランティア体験会の開催など、森林ボランティア活動への一体的なサポートを実施します。

● 森林環境教育の推進

新たな「緑のインタープリター」を養成し、小中学生を対象にしたフォレストリースクールや市町村提案型事業（森林環境教育）、緑の少年団育成事業、県民を対象にした自然観察会、自然講座等への派遣などを通じて森林環境教育を推進します。

2 実施状況

【平成27年度の実績】

14,966千円

○森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア支援センターの運営
- ・専用ホームページ「モリノワ」の運用
- ・情報誌「モリノワ」、メールマガジンの発行
- ・森林整備作業用の機械・器具の貸し出し：71回
- ・安全講習会の開催 開催回数：8回、参加人数：97名
- ・森林ボランティア体験会の開催：開催回数：3回、参加人数：93名

○森林環境教育の推進

- ・緑のインタープリター養成講座の開催
 - ・新規講座：12回（養成者数26名）
 - ・経験者講座：4回（養成者数10名）
- ・緑のインタープリター登録者数：62名
- ・フォローアップ研修 開催回数：3回



情報誌「モリノワ」



貸出し機材



刈払機の安全講習会



ボランティア体験会



指導者養成講座

3 成果

○森林ボランティア活動の推進

森林ボランティア支援センターを運営し、専用ホームページや情報誌、メールマガジンなどによる情報発信や刈払機取り扱いなどの安全研修、森林整備作業器具の貸出し、新規参入を促すボランティア体験会などを実施し、森林ボランティア団体の活動を支援しました。

○森林環境教育の推進

- ・指導者養成講座の実施により、新たに36名の「緑のインタープリター」を養成しました。
- ・新たに開始した「緑のインタープリター活動登録制度」により62名が活動登録しました。
- ・登録した緑のインタープリターは、市町村提案型事業(森林環境教育)や出前授業の「小・中学生のためのフォレストリースクール」の講師など多方面で活動を行いました。

4 課題・方向性

○森林ボランティア活動の推進

- ・県民自らが森林や林業に関心を持ち森林保全や森林整備の必要性について理解を深めることが重要なことから、森林ボランティアに取り組む団体等の支援をさらに推進する必要があります。

○森林環境教育の推進

- ・森林や自然に対する県民の関心と理解を深めるためには知識・ノウハウのある指導者が不可欠なことから、引き続き指導者の計画的な養成を図っていく必要があります。
- ・また、フォレストリースクールや市町村提案型事業(森林環境教育)等の指導者ニーズに対応するため、指導者の量的・質的確保を図る必要があります。

5 実施状況の評価（評価者：県）

○森林ボランティア活動の推進

専用ホームページや情報誌による情報収集・発信、刈払機などの安全研修、森林整備作業器具の貸出しに加えて、ボランティア体験会の開催やメルマガによる情報発信などの新たな取り組みを行い、おおむね計画どおりに支援を実施しました。

なお、平成27年度末の森林ボランティア団体数は78団体、会員数5,056人(緑化推進課調査)と増加傾向にあります。

○森林環境教育の推進

- ・現地研修や講師実習など実践的なカリキュラムを含め年13回の講座を開催し、計画を上回る36名の「緑のインタープリター」を養成しました。

6 評価検証委員会の意見

- ・当初の計画通り事業が遂行されていると認められる。
- ・森林ボランティアの会員数が5千人を超え、活動が活発になっており、事業遂行の成果が認められる。
- ・子供達への森林環境教育を教育委員会などと連携して推進すること。
- ・活動を通して、森林の大切さを学んだ子供たちが、大人になり、親となった時に次世代につなげていけるような流れが出来るよう取り組むこと。
- ・情報発信は、積極的に進めること。
- ・県内各地で緑のインタープリターが活躍しているので、今後も多くの県民に森林の現状や大切さを知っていただくよう、積極的な活動を推進すること。

1 概要

- 荒廃した里山・平地林の整備
市町村と地域住民やNPO・ボランティア団体等の協働による地域に根ざした森林整備を支援します。
- 貴重な自然環境の保護・保全
市町村あるいは市町村と地域住民が行う、県動植物レッドリストで野生絶滅種及び絶滅危惧種Ⅰ、Ⅱ類に指定されている種(約650種)が生息している地域の保護・保全活動を支援します。
- 森林環境教育・普及啓発
児童生徒や県民を対象とする森林環境教育及び森林体験活動を支援します。
森林の機能や重要性について普及啓発する取り組みを支援します。
- 森林の公有林化
水源地域の森林や平地林の購入(公有林化)あるいは平地林を造成しようとする市町村を支援します。
- 独自提案事業
ぐんま緑の県民税の趣旨・目的に適合し、適切な事業であると認められ、評価検証委員会の承認を得た事業を支援します。

2 実施状況

【平成27年度の実績】

236,761千円

3 平成26年度繰越事業

・平成26年度事業のうち、以下の事業については繰越により平成27年度に実施しました。

	繰越			完了			事業量	廃止		
	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)		市町村数	事業数	補助金額(千円)
荒廃した里山・平地林の整備	6	17	89,675	6	17	71,237	森林13ha、竹林25ha	—	—	—
貴重な自然環境の保護・保全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
森林環境教育・普及啓発	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
森林の公有林化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
独自提案事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	6	17	89,675	6	17	71,237		0	0	0

4 平成27年度採択状況

・平成27年度は第1次募集及び第2次募集を実施し、以下の事業を採択しました。

	第1次募集			第2次募集			合計			事業計画量
	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)	
荒廃した里山・平地林の整備	22	68	80,108	19	79	133,737	26	147	213,845	森林100ha、竹林29ha 管理85ha
貴重な自然環境の保護・保全	9	13	3,985	5	9	2,003	10	22	5,988	植物27種 生物12種
森林環境教育・普及啓発	12	26	10,876	5	5	1,013	14	31	11,889	31事業
森林の公有林化	1	1	9,485	0	0	0	1	1	9,485	平地林 0.26ha
独自提案事業	5	5	5,948	2	2	6,222	6	7	12,170	森林2ha、竹林1ha
合計	27	113	110,402	23	95	142,975	31	208	253,377	

5 平成27年度事業実績

・平成27年度は以下の事業を実施しました。

	完了			事業量	参考:繰越			(廃止)		
	市町村数	事業数	補助金額(千円)		市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)
荒廃した里山・平地林の整備	26	100	130,133	森林54ha、竹林16ha	5	14	62,305	9	33	29,665
貴重な自然環境の保護・保全	10	22	5,588	植物27種 生物12種	—	—	—	—	—	—
森林環境教育・普及啓発	14	31	11,194	約5,800人	—	—	—	—	—	—
森林の公有林化	1	1	10,000	平地林 0.28ha	—	—	—	—	—	—
独自提案事業	5	6	8,609	森林 2ha、竹林5ha	—	—	—	1	1	700
合計	29	160	165,524		5	14	62,305	10	34	30,365

※変更等により補助金額の増減があるため、採択時の合計補助金額と実績の合計補助金額は一致しません。

・市町村提案型事業の状況



荒廃した里山・平地林の整備（前橋市）



荒廃した里山・平地林の整備（富岡市）



・平成27年度 市町村提案型事業の実施状況



荒廃した里山・平地林の整備（高山村）



貴重な自然環境の保護・保全（伊勢崎



貴重な自然環境の保護・保全（渋川市）



森林環境教育・普及啓発（千代田町）



森林環境教育・普及啓発（館林市）



森林環境教育・普及啓発（藤岡市）



独自提案事業（渋川市）

6 成果

- ・ 各(環境)森林事務所単位で市町村説明会を開催すると共に、市町村の林業担当部局や教育委員会等に、直接訪問して幅広く事業普及に努めた結果、平成26年度は29市町村(117事業)で取り組んでいた事業が、平成27年度は31市町村(208事業)で取り組まれました。
- ・ 事業普及の結果、平成26年度は約2,000人の参加者であった森林環境教育・普及啓発への参加者が増加し、約5,800人の県民(児童生徒)へ、森林環境の大切さを伝えることができました。
- ・ 評価検証委員会より「県民ニーズと制度設計時における想定にズレが生じている場合もあり、十分な検討が必要とされる。」との意見をいただいたため、県民から要望が多かった竹林の全伐と、森林環境教育の拡充を行いました。
- ・ 幅広く事業普及を実施した結果、平成28年度事業計画が県内全市町村から提出され、平成28年3月に開催された評価検証委員会において、当初予算(280,000千円)に相当する事業が承認されました。

7 課題・方向性

- ・ 困難地整備支援後の地元による維持管理作業への負担感から、協定を締結できず廃止となった事業があります。そのため、地元市町村と協力しながら地域の取組をフォローし、本事業を有益に活用できる体制づくりを行います。
- ・ 事業採択されたものの年度内に事業が完了せず繰越事業が生じたため、市町村による早期の事業着手が図られるよう事務手続等のスケジュールについて配慮する必要があります。
- ・ 今後も幅広く事業普及を実施し、市町村提案型事業の定着を図ります。

8 実施状況の評価(評価者:県)

- ・ 事業の普及に努めた結果、事業の利用件数が増加しました。
- ・ 荒廃した里山・平地林の整備については、採択された計画の一部について、整備箇所の地元調整が難航し、年度内完了が困難(繰越14事業)となり、十分な効果に繋がらない事業が生じました。

9 評価検証委員会の意見

- ・ 事業数は、平成26年度の29市町村117事業から、平成27年度は31市町村208事業まで増加し、県の普及啓発の効果が現れている。引き続き本税の活用方法をわかりやすく伝え、全市町村で取り組めるように推進すること。
- ・ 森林環境教育・普及啓発事業についても、平成26年度に比べ、参加者が約3倍近く増加しており、ぐんま緑の県民税をきっかけとして、森林県として森林の保全と活用の重要性が多くの県民に伝えられるようになったことは、本税の趣旨に沿い、県の努力も認められる。
- ・ イノシシ等の被害が全県的に発生している現状をふまえ、本税による事業だけでは限界があることから、鳥獣害対策事業とも連携し、県民の安全を守るように進めること。
- ・ 里山の整備は、事業効果が県民に見える形となっている。今後さらなる充実を図ること。

1 概要

● 普及啓発

ぐんま緑の県民税への理解を深めるため、税のしくみ、森林の役割や大切さの普及啓発活動を実施します。

● 評価検証

事業の内容検討・実績評価・効果検証などを行う「ぐんま緑の県民税評価検証委員会」を運営します。
事業の客観的な効果検証を行うために必要な県の林業試験場による調査・分析を実施します。

2 実施状況

【平成27年度の実績】

2,499千円

○普及啓発

【平成27年度の実績】

998千円

- ・ 制度の一部変更に伴うリーフレットの改訂版作成(10,000部)
- ・ 広報媒体を利用した普及啓発(県HP、FMぐんま等)
- ・ 本事業による整備箇所を見学するバスツアーの実施(3回・113人)
「ぐんまの森林をトレッキング！歩こう！登ろう！ぐんまの森林ツアー」
- ・ 市町村への普及啓発活動
- ・ 平成26年度事業実績報告書の作成

リーフレット



バスツアー



県ホームページ



○評価検証（評価検証委員会の運営）

【平成27年度の実績】

383千円

- ・ 評価検証委員会の開催(3回)
 - 1回目:平成27年 8月17日 …県庁29階 第一特別室 9:30~11:30
 - 2回目:平成27年12月14日 …県庁 7階 審議会室 14:00~16:00
 - 3回目:平成28年 3月18日 …県庁29階 第一特別室 10:00~12:00

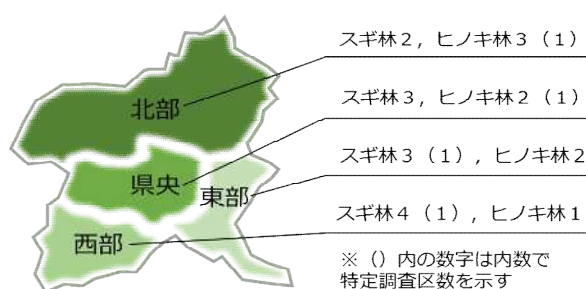


○評価検証（調査分析）

【平成27年度の実績】

1, 117千円

- ・ 水源地域等の森林整備事業地を対象に間伐の実施による事業効果の判定
- ・ 県内20箇所に設定した調査対象地の追跡調査を実施
(相対照度測定・植生調査・植被率調査)



相対照度の測定の様子

調査地の内訳

調査項目	通常区	特定調査区
毎木調査		○
照度	○	○
植被率	○	○
植生乾燥重		○
土壌断面		○
植生調査	○	○



植生調査



植被率調査

3 成果

○普及啓発

・ ぐんま緑の県民基金を広く普及啓発するため、改訂した内容を盛り込んだリーフレットの作成、各種メディア媒体を活用した広報活動の実施、また、県民税を使った森林整備箇所を見学するバスツアーを実施し、ぐんま緑の県民税の趣旨や事業内容などの理解の促進を図りました。

○評価検証（評価検証委員会の運営）

・ 3回の評価検証委員会を開催し、森林・竹林の全伐支援などの新たな事業メニューの設立、平成28年度に実施する266事業の採択などを行い、議事の内容や審議結果を公表しました。

○評価検証（調査分析）

・ 20箇所の水源地域等の森林整備事業地を対象とし、間伐実施後の森林の状況を調査し、調査分析に必要な情報の収集を実施しました。

4 課題・方向性

○普及啓発

・ 県民が事業の成果やその効果について理解を深めるために、引き続き、広報誌や各種メディア媒体を活用し効果的な広報活動に努めます。

○評価検証（評価検証委員会の運営）

・ 事業の検証や評価、助言を通して、明らかになった課題の解決に努めます。

○評価検証（調査分析）

・ 間伐実施後の調査地のデータを確実に収集し、適切な調査分析を実施します。

5 実施状況の評価（評価者：県）

・ 制定から2年が経過し、1次募集で平成28年度予算全てが採択されていることから、県民の理解は進んでいると考えられます。

・ 平成27年度の制度運営に関する取組内容は適正に実施されており、概ね期待された成果が得られました。

6 評価検証委員会の意見

・ 本税によって森林整備に取り組む自治体が31市町村になり、自治体には本制度がかなり浸透してきたものと認められる。

引き続き、県・市町村・関係団体が連携し、さらなる県民理解に結びつくように事業を推進すること。

・ 子供達や広く県民への森林環境教育に合わせて、「税」についての理解も深めていただけるような取り組みが引き続き必要である。

V ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿

(五十音順 敬称略)

氏名	職業・役職等	参考	備考
内山 はるの	森林所有者	森林・林業関係者	
金井田 好勇	館林市副市長	平地林代表市町村	
金子 裕昭	連合群馬事務局長	納税者(労働団体)	
鬼頭 春二	みなかみ町副町長	山地代表市町村 (H27.2.19～)	
高橋 淳子	桐生大学短期大学部 生活科学科教授	学識経験者 (環境教育)	
田村 辰夫	森林所有者	森林・林業関係者	
西岡 喬	太田商工会議所副会頭	納税者(経済団体)	
西野 寿章	高崎経済大学地域政策学部 観光政策学科教授	学識経験者 (森林環境保全)	委員長
松本 勉枝	群馬県生活協同組合連合会 女性協議会会長	納税者(消費者団体) (H26.7.22～)	
宮地 由高	群馬NPO協議会相談役	学識経験者 (NPO・ボランティア活動)	委員長代理

(任期 : 平成27年4月1日 ~ 平成29年3月31日)



ぐんま緑の県民基金事業 平成27年度 実施報告書

○ この実施報告書に関するお問い合わせ先

群馬県環境森林部 林政課 林政推進係
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL:027-226-3278 Fax:027-223-0154
E-mail :rinseika@pref.gunma.lg.jp

○ ぐんま緑の県民税ホームページ

<http://www.pref.gunma.jp/04/e3000101.html>